いじめのなくし方

みなさんは、いじめはなぜ起こるのか、いじめはどうすればなくせるのか、考えたことはありますか。わたしは、中学生の時にいじめにあいました。おとなになって学校の先生になってからは、子どもたちに自分と同じ思いはさせたくないと思ってきました。実際に、学校でいじめが起こったときには、子どもたちと一緒にいじめをなくすことができました。このような経験をもとに、みなさんと“いじめ”について考えてみたいと思います。

まず、みなさんは、なぜ“いじめ”は起こるのだと思いますか。

わたしは、その答えは２つあるのではないかと思っています。１つめの答えは、「いじめる人がいるから」です。「いじめはいじめられる人も悪い。いじめられる側にも原因がある。」こんなことを言うおとなの人もいます。しかし、それはまちがいだと思います。いじめる人がいなければ、いじめられる人もいなくなります。いじめられる人がいくら努力しても、誰をいじめるかを決めるのはいじめる人です。いじめる人が気に入るように努力するなんて、わたしは絶対にいやです。どんな理由があっても、それが人をいじめていい理由にはなりません。だから、いじめられている人は「自分が何か悪いのでは」なんて思う必要はありません。「あなたは、１００％悪くない」のです。

**④**　　　　　　**④**

**④**　　　　　　**④**　　　　　**④**

**④**　　　　　**③**　　**③**

**④**　　**③**　　**①**　　　　　　　**②**

**④**　　**③**　　**③**　　　　　　　　**④**

**④**　　　　**④**　　　**④**　　　**④**

もう１つの答えは、集団の中に右のような

人間関係ができてしまったとき、それはも

う“いじめ”だと思っています。

　①は、中心になって②の人をいじめている

人です。では、①のまわりに集まっている③

はどのような人でしょうか。

　③の人は、

〔

〕などです。

　④は、どのような人でしょうか。

〔

〕などです。

　いじめは、集団の中で起こります。そして、集団の中に上のような人間関係ができたときにいじめは起こると思うのです。このような関係は、気づかないうちにできてしまうこともあります。だから、「いじめだとは思わなかった」「ふざけていただけだった」「同じようなことはみんなしていた（されていた）」というような声が後から出てくるのです。

　次に、みなさんは“いじめ”はなくせる（解決できる）と思いますか？

　わたしは、「なくせる」と思っています。それは、実際に自分たちで学校での“いじめ”を乗り越えた小学生や中学生を見てきたからです。

　小学６年生の子どもたちは、まず４人で「いじめをなくす闇のチーム」をつくりました。上の図で言うと④の子どもたちです。このチームは、いじめられている②の友だちを、いじめる人（①・③）やいじめられる時間、いじめられる場所からできるだけ遠ざけるという作戦を実行しました。学校の中では（学校の行き帰りも）、②の人を絶対に一人にしませんでした。休みの日にも一緒に楽しい時間を過ごしました。そして、いやいや③にいた人もチームの仲間にしました。そうしながら、チームの仲間をどんどん増やしていったのです。（実は、担任の先生もチームの仲間でした。）こうなると、①や③の人と一緒に行動する人はいなくなり、①や③の人もいじめができなくなっていったのです。

　中学２年生の子どもたちは、同じようにいじめを止めた後に、いじめの中心にいた①にこう声をかけました。「いじめは、あなただけのせいじゃない。わたしたちにも責任があったんだ。あなたにもいろんな理由があったと思う。あなたの本当の気持ちを話してくれないかな。」そして、その後、①の人はみんなの前で自分のイライラや悩みを伝え、謝りました。その後は、みんな笑顔で仲のいいクラスに変わっていきました。

　いじめを乗り越えた子どもたちからわたしが教えてもらったことは、「いじめのなくし方」です。いじめをなくすためには、次の３つのステップが必要でした。

ステップ１　〔 　　　　　　　　　　　　　　　　　　 〕

ステップ２　〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　 〕

ステップ３　〔 　　　　　　　　　　　　　　　　　　 〕

　ニュースでは、毎日のようにいじめの悲しいニュースが流れています。でも、いじめを乗り越えた子どもたちのことや「いじめのなくし方」については流れません。だから、「いじめはいけないから、なくさなければいけない。」「でも、どうせいじめはなくならない」とみんな思っているのではないでしょうか。

　いじめを乗り越えた子どもたちを見ていると、いじめを乗り越えるためには必要な力があるのではないかと思います。それはどんな力か、みなさんも考えてみてください。その力をみんなが身につければ、もういじめは怖くなくなるかも知れませんね。

〔 困っている人に（　　　　　）力、（　　　　　　）力 〕

〔 困っている人をまわりと協力して（　　　　　）　力（自分にできることを行動する力） 〕

〔 自分を守るために（　　　　）たり、自分を（　　　　　）にしたりできる力 〕

いじめのなくし方　※教師用

みなさんは、いじめはなぜ起こるのか、いじめはどうすればなくせるのか、考えたことはありますか。わたしは、中学生の時にいじめにあいました。おとなになって学校の先生になってからは、子どもたちに自分と同じ思いはさせたくないと思ってきました。実際に、学校でいじめが起こったときには、子どもたちと一緒にいじめをなくすことができました。このような経験をもとに、みなさんと“いじめ”について考えてみたいと思います。

まず、みなさんは、なぜ“いじめ”は起こるのだと思いますか。

わたしは、その答えは２つあるのではないかと思っています。１つめの答えは、「いじめる人がいるから」です。「いじめはいじめられる人も悪い。いじめられる側にも原因がある。」こんなことを言うおとなの人もいます。しかし、それはまちがいだと思います。いじめる人がいなければ、いじめられる人もいなくなります。いじめられる人がいくら努力しても、誰をいじめるかを決めるのはいじめる人です。いじめる人が気に入るように努力するなんて、わたしは絶対にいやです。どんな理由があっても、それが人をいじめていい理由にはなりません。だから、いじめられている人は「自分が何か悪いのでは」なんて思う必要はありません。「あなたは、１００％悪くない」のです。

　　　　　　④　　　　　　④

④　　　　　　④　　　　　④

④　　　　　③　　③

④　　③　　①　　　　　　　②

　　　④　　③　　③　　　　　　　　④

　　④　　　　④　　　④　　　④

もう１つの答えは、集団の中に右のような

人間関係ができてしまったとき、それはも

う“いじめ”だと思っています。

　①は、中心になって②の人をいじめている

人です。では、①のまわりに集まっている③

はどのような人でしょうか。

　③の人は、

〔 ①と一緒になって面白がっていじめている人、このグループの中にいれば自分は安全だと勘違いしている人、本当はしたくないけど自分がいじめられるのが怖くて命令されてしている人 〕などです。

　④は、どのような人でしょうか。〔 いじめが起こっていることに気づいてもいない人、気づいているけど関係ないと思っている人、関わり合いたくないと思っている人、自分がされないように知らないふりをしている人 〕などです。

　いじめは、集団の中で起こります。そして、集団の中に上のような人間関係ができたときにいじめは起こると思うのです。このような関係は、気づかないうちにできてしまうこともあります。だから、「いじめだとは思わなかった」「ふざけていただけだった」「同じようなことはみんなしていた（されていた）」というような声が後から出てくるのです。

　次に、みなさんは“いじめ”はなくせる（解決できる）と思いますか？

　わたしは、「なくせる」と思っています。それは、実際に自分たちで学校での“いじめ”を乗り越えた小学生や中学生を見てきたからです。

　小学６年生の子どもたちは、まず４人で「いじめをなくす闇のチーム」をつくりました。上の図で言うと④の子どもたちです。このチームは、いじめられている②の友だちを、いじめる人（①・③）やいじめられる時間、いじめられる場所からできるだけ遠ざけるという作戦を実行しました。学校の中では（学校の行き帰りも）、②の人を絶対に一人にしませんでした。休みの日にも一緒に楽しい時間を過ごしました。そして、いやいや③にいた人もチームの仲間にしました。そうしながら、チームの仲間をどんどん増やしていったのです。（実は、担任の先生もチームの仲間でした。）こうなると、①や③の人と一緒に行動する人はいなくなり、①や③の人もいじめができなくなっていったのです。

　中学２年生の子どもたちは、同じようにいじめを止めた後に、いじめの中心にいた①にこう声をかけました。「いじめは、あなただけのせいじゃない。わたしたちにも責任があったんだ。あなたにもいろんな理由があったと思う。あなたの本当の気持ちを話してくれないかな。」そして、その後、①の人はみんなの前で自分のイライラや悩みを伝え、謝りました。その後は、みんな笑顔で仲のいいクラスに変わっていきました。

　いじめを乗り越えた子どもたちからわたしが教えてもらったことは、「いじめのなくし方」です。いじめをなくすためには、次の３つのステップが必要でした。

ステップ１　〔 いじめられている人を助ける。 〕

ステップ２　〔 いじめをなくすチームの仲間を増やす。 〕

ステップ３　〔 いじめている人を助ける。 〕

　ニュースでは、毎日のようにいじめの悲しいニュースが流れています。でも、いじめを乗り越えた子どもたちのことや「いじめのなくし方」については流れません。だから、「いじめはいけないから、なくさなければいけない。」「でも、どうせいじめはなくならない」とみんな思っているのではないでしょうか。

　いじめを乗り越えた子どもたちを見ていると、いじめを乗り越えるためには必要な力があるのではないかと思います。それはどんな力か、みなさんも考えてみてください。その力をみんなが身につければ、もういじめは怖くなくなるかも知れませんね。

〔 困っている人に気づく力、見逃さない力 〕

〔 困っている人をまわりと協力して助ける力（自分にできることを行動する力） 〕

〔 自分を守るために逃げたり、自分を元気にしたりできる力 〕